

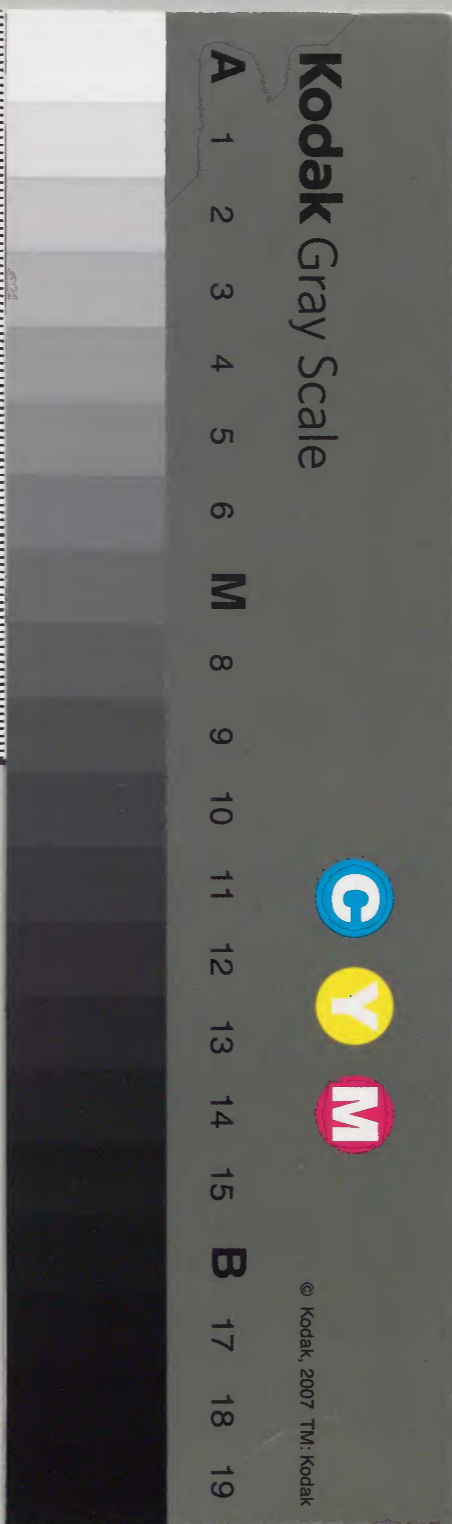
邊要分界圖考

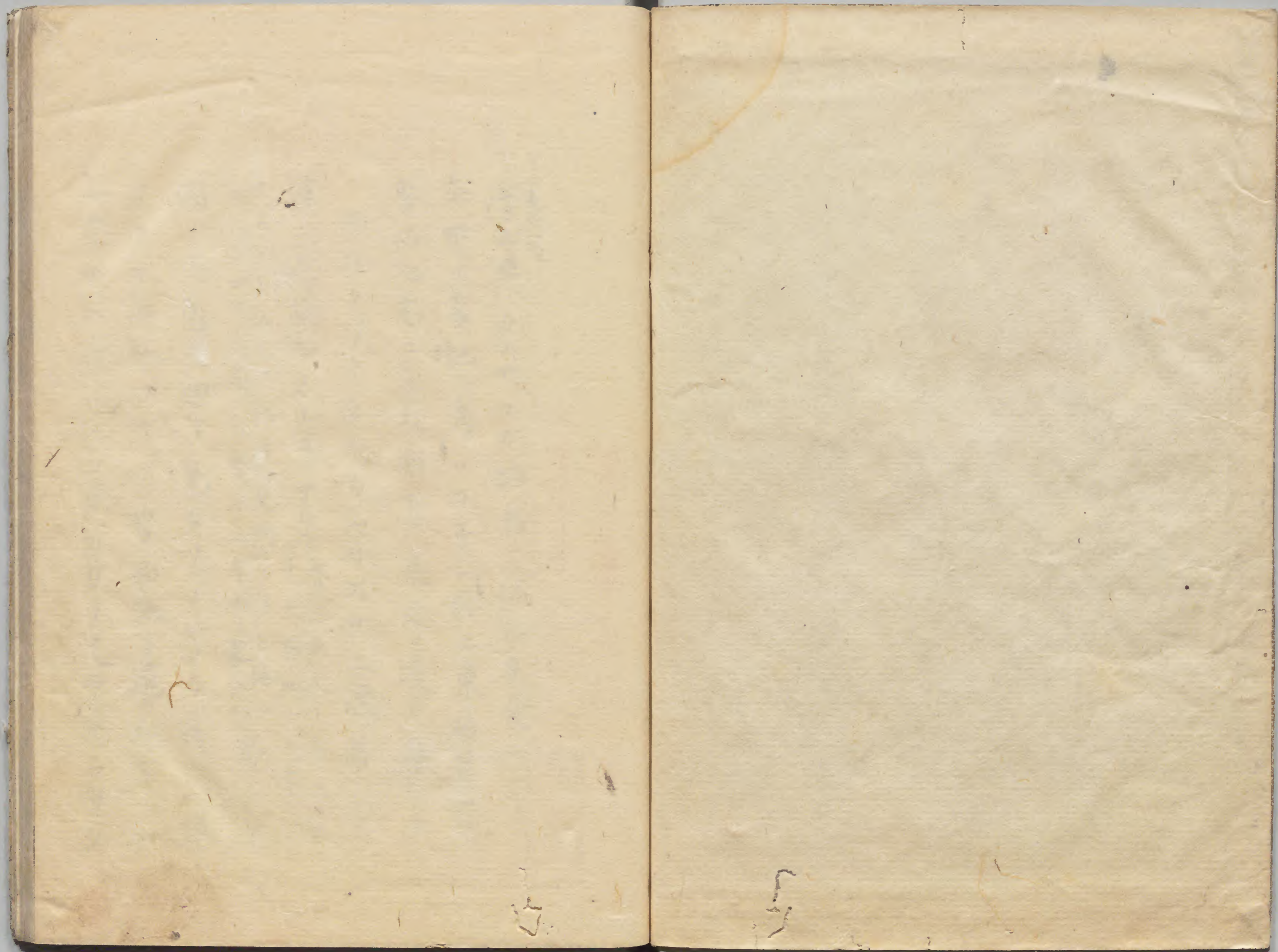
十

		和書門	
一〇冊	八六函	二八七〇號	類

庫文閣内		和書	
七〇函	一〇冊	二八七〇號	類

内閣文庫	
番號	和 28170
冊數	10 (10)
函號	178 113





イ四巻の吹スル

魯西亞ノカムサスガ諸島ヲ併吞蚕食セシ

本邦ノ書記ニ考ルルニ按ニ東砂葛記在

魚日西亞志ニ云我明曆寛文ノ頃カ魯西亞

ノテヲトツト云人カムサスガニ漂着シテ

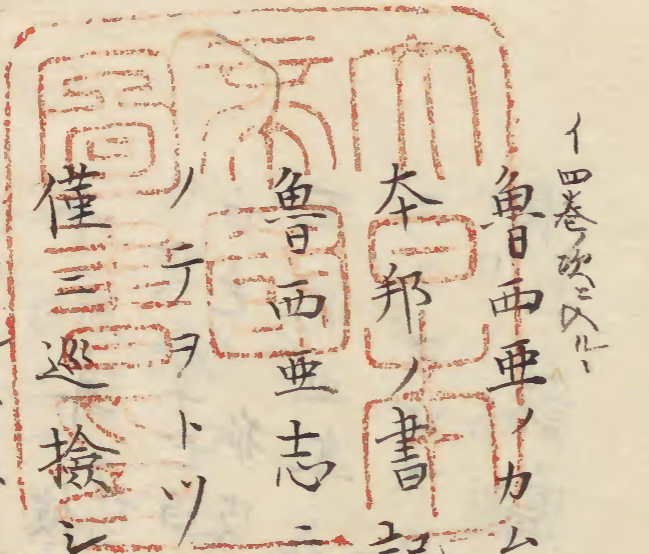
僅ニ巡檢シタルヲアリ 魯西亞人イシエエ云

ヲフルト云モノ初テ見開ケリト按ニ即ソノ

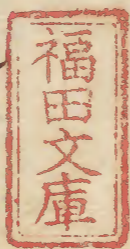
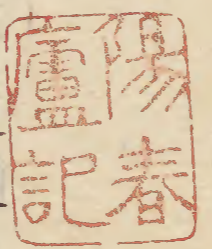
千六百四十三年ハ我慶安二年ナリ畧合ス 國ノ周圍ヲ廻リ見タリソレヨリ後ハ誰

アリテ此地ノ下ヲ魯西亞ニ通知セシム

ル者ナシ然ルニコサツカノ人アトラソフ



明治十五年購求



ト云者此地ノ要処ヲ見タルト多シ即元
禄十一年彼国千六百アタラクフ一軍ヲ帥
ヒテコーサツケンユカケリ及コレーキヨリ
此地ニ至リ土人ヲ大半服セシメテ元禄
十三年彼国千七百七月本國ニ帰ル其得タル
ノ皮三千二百枚ベイヤコル即ラツコ七十七瀬四灰
白色ノ狐皮十枚赤狐九十一ヲ帝ニ献ス
正徳五年彼国千七百十五再軍勢ヲ理シテコス
モソコロフト云者ヲシテカムサスガ及近
傍ノ諸島迄モ伐從ヘリ其船ハラホツ

即ヲホツカニテイルコノ小城ヨリ出帆シテ
ツカノ南濱ノ名ナリノ港ニ入テカムサスガノ地
ベニシニクスノ港ニ入テカムサスガノ地
地ニ到ル又ヲコツコイ海ヨリカムサス
ガノ城下ニモ着船スルナリ享保十六
年彼国千七百三十カムサスガノ人聚リ起テ魯
西亞ニ叛ク哉ホドモナクシテ静謐シテ
其後永ク服從スベキ盟約ヲナシ其賦
税ハ年毎ニ人ニサメル皮ベトスル獐鹿狐
一枚ツ、出貞享十二年蜜妻セオカラヒイ云蛮書ヒヲカ云一千
スナナリ

六百八十九年子ルトシキンスコイノ内子ルト
トシキト云処ニ城ヲ築キ支那ノ境ヲ堅
ム此所ニ關ヲスヘテ使幣ヲ交ユ韃而鞞ノ古国
ナ一千七百十三年正徳四年カムサスガヲ伏從ス
一千七百二十四年享保七年スコイニ城ヲ築
テ清朝ノ境ヲ堅メ交易シテ大ニ利ヲ得タ
リ同年カビタニ某カムサスガ辺ノ島ニ往テ
是ヲ領ス蝦夷人名字ヲ請ニ依テサンクトフ
ロウレニスト云名ヲ與フ一千七百三十年

享保十年 女帝アシナノ時及シ程ナリ又從フ是
ヨリ後女帝ノ命令ニテ清朝ト日本トニ
通路シテ二國ノ強弱虚實ヲモ試ミ通船
交易ノトモ謀ルベシト云又女主アシナノ
命ニテ官人ヘールヘルヒア和蘭セイカビタ
ニ沖船頭ト云丁スハレンベルグト共ニ南日本ノ地
方ニ臨ム赤蝦夷カムサスガノ南口ニヤ領
スル外前路三十四島アリ船ヲヨセ陸ニ
上ラニトヲ欲レ凡島人サ、ヘテアゲス此

時クルノ人ヲ舩中ニノスクルノ人曰クルトハ
カムサスカノ南ヨリ地名ナリ此所ハ蝦
夷ニ近シト通辨分リソレヨリヨキ島ニ
到ル島人慈心アリテヨク存恤ス此島ヨリ
草木ノ果ヲ出ス其産ヲ推乃来テ與フ亦滯
留スルニ更ニ怪マズ亦二人議テ曰シ十ノ支那則
ヤツパレ相俾通路茲ニアリト決ス
支那則
清土ナリ

魯西亜本記ニ云我延享元年和蘭ウトルキトニ
翻訳スル所ノ書ナリ前楚憲
所ナリ 元文二丁巳年諸臣會議シテ曰今主人

廣徳ニ頼テ近隣悉ク帰服シテ從横宏達通ゼザ
ル所ナシ実ニ宇内ノ大平ノ基ヲ開クト云ベシ
因テ尚クハアルカニゲルヨリ海船ヲ登シ北亞
黑利加ノ地方ヨリ日本及支那ニ至ルマテ遠ク
巡察シテ諸外国ノ方物ヲ交易シテ以テ万民ニ
シテ太平ノ化ヲ被ラシメン之ヲ念フニ今此時
ニアタレリト乃主コレヲ可ナリトシテ遂ニ海船
ノ正司ベルヒク副司スバツレヘルグ此人和蘭
ノカビタ
出ルニ命シテ大船ヲ發セシム是ヨリ初テ都下ノ

大高國主ノ許容ヲ蒙テアルカニゲルヨリ高
船ヲ發シテ既ニ東方ニ到ル者アリ彼日本ノ近
辺ニ在テ其友人ナル船司ヘ贈タル告文アリ
即茲ニ附ス其文ニ曰

一日大韃靼 即此韃ノ東濱ヲ ヨリ 出帆シテ

カムサツカノ南ニアルクリルト云島ニ到ル此

ニ魯西亜ノ成館アリ吾船中二人ヲテクア

ルニ因テ彼館ニ請テ其土人若干ヲ借テソレ

ヨリ南ニ行ク海中小島多シ日本ニ属シタルモア

ルヨシナリ船ヲ從ラシテ之ヲ計リ之ルニ凡
三十四島アリ乃一島ニ近キテ碇ヲ下シ茲ニ
上ラントス島ノ人種ニノ器械ヲ以テ之ヲ妨
ク是ニ於テ吾クリルノ人ヲ以テ此処ニ來ルノ
仔細ヲ通ゼシム島人其證ヲ見ニテ求ム乃
吾コレヲ明ニ示ス彼仍テ其事ヲ審ニシテ後
却テ初ノ率アルヲ謝シタリ吾更ニ行船ノ備ヲ
設テ茲ヲ去リ又別ノ一島ニ到ル其島人甚
好意アリテ吾從ヲ島ニ上ラシム此日大韃靼

ヲ發シテヨリ十六日ニ當レリ此島次土ニシテ諸
木美ナルト他ニ異ナリ吾彼果实及其餘ノ産
物ヲモタク採テ船中ニ收メ置タリ

右ハ日記中ヨリ拔萃スル所ニシテ即吾目撃シ
タル実跡且其産物ヲモ持帰ヲ以テ窮理学ノ
一端ニ供セントス此餘交易ノ一事ハ之ヲ畧ス尚
此地ヨリ日本支那ニ到ラニサニ吾魯西亜交
易ノトヲ圖ントスルノミ

此記事魯西亜ノ大商ノ輩須ク心ヲ用テ之ヲ讀

ヘシ即今船司スバツレペルク等日本支那ノ通
路ノ海洋審ニシテ遠東外國ノ商船吾魯西亜ノ
モスクワ ベテルスボルソ アルカンゲルノ三都
會ニ聚リ来ニトヲ欲ス先主既ニ數百萬ノ財ヲ
散ニテ四方ノ民悉ク聚リ乃魯西亜北地ノ東邊
ニ至ルマテ皆吾城壘ヲ建置スルニ及ベリ況ヤ
此通商ノトニ於テハ五ドコロニ之ヲ得ベキガ
如シ然トイヘ凡但亘時ノ至ルヲ期スベシ

日本人ロシヤエ漂流之事

宝曆三年癸酉

三云延享元年ト然レモ天明五年

飛澤屋某ノ書ニ三十三年前トア

レハ宝曆三年ヲ是トスベキカ又一説ニ宝曆

十二年ノ頃ロシヤエ漂流人アリテ今ニ六人

存命シ子アリ其國ヲ問ハハ

松前ト云ト疑クハ傳聞ノ誤ナラン

奥州南部領佐井村

竹内徳兵衛外十六人千二百石積ノ新艘エ衆組

同年十一月十四日佐井ノ湊開帆シテ難風ニ逢

テ北方ニ漂流シテ赤人ノ國ニ漂着ス徳兵衛ガ

親族勝右衛門奥戸村伊勢屋安兵衛親類利八

大向村長松宮古湊伊兵衛長助等五人今ニ存生シ

テ赤人ノ國ノ土人トナリ各所ニ住居ス利八ハ

ニ針路ヲ求テ舩出セリ蝦夷ノ地方ニテモムキ
シガカラフトニ着シテ土人ノタメニ殺サレ舩
ハ流レテウルツブ島ノアタツトイニ漂着シケ
リ時ニエトロフ島ノ酋長ハツパアイノト云モノ
之ヲ見テ舩ニノリテミルニ無_レ疵ノ死骸一ツ
アリテ外ニ舩頭水主モ見エズ金銀錢カクシ置
其舩ヲハ焼弃ケリ然ルニ毎年獵虎澳ニ渡来スル
赤人ノ舩遠沖ヨリ幽ニ見ヘテ段々間近ク頃
テ此島エ着岸トミヘケレハ時ニハツパアイノ

思フハ赤人ノ大舩焼弃テ舩中ノ積荷物取カクシ
タルコトモシ露頭ニ於テハ舩中ノ人モ我等殺
シタルヤト疑モカ_レルベキヤトテ日和ノ善惡ヲ
モ見定メズ周章テ蝦夷舩九艘ニ乗組百人餘ニ
テウルツブ島ヨリ出舩シテエトロフ島ニ遁帰
テント汝ノ急流ヲモ厭ハズ大難海ヲ渡リシガ
折節暴風強ク遂ニ沖中ニテ浪底ニ覆没シテ溺
死シタリケル赤人ドモハウルツブ島ニ着舩シ
テ其辺ニ遁残リタル蝦夷人エ詰問スレバ

ハツハアイト云モノ當島へ漂流ノ船中ニ死骸ツ
アリテ船主モナケレバ荷物ヲ取カクニ遁去ク
ル次男具ニ告ケレバ赤人是ヲ聞テ大ニ怒リ以
島ハ赤人蝦夷兩國入合漢業セシ所ナレハ急難
ハ互ニ救フベキニ不法ノ仕方ナリトテ鬱憤^{本ミ}ヲ含
ミケル蝦夷双紙ニ載ス

天明ニ寛年伊勢国白子村神^昌丸船主彦兵衛船
頭幸太夫外十六人乗組同年十二月鳥羽出帆駿
河沖ニテ難凡ニアヒ漂流シ翌卯年七月アミシ

ツカ島エ漂着同所ニ四年滞留セシニ赤人此島
エ獵虎漢ニ来リシ船アリ其船ニ便乞シテ同七
未年八月カムサスガエ着船同八申年チキリヲ
経テヲホツカエ入津十一月ヤコヲツカエ着寛
政元酉年二月イルコヲツカエ着同三亥年二月
ヲロシヤノ城下子テルポルエ着女帝エ渴シ同
十一月城下出立同子年九月十二日ヲホツカ出
船十月三日東蝦夷地ハテサンエ帰着同五日魯
西亞船ニノリテ子モロエ帰因ス
子年ロシヤ人
来朝ノ始未ハ

世ノ人皆知ル所ニ
故ニヨリニ畧ス

寛政五年癸丑奥州仙臺領石ノ巻若宮丸船頭
清兵衛外十五人同年十二月難風ニアヒ翌年寅九月
アツカト云島ニ漂着卯年六月口シヤノ船ニテ
ヲコウツカエ着ス文化元子年九月六日五人口
シヤ船ニ乗テ長崎ニ帰国ス

魯西亜始末

魯西亜人ノヲ蝦夷人フーレシヤムト云夷言ニフーレハ
赤キヲナリシヤムハ人ノヲナリ故ニ松前人之

ヲ稱シテ赤人ト云又赤蝦夷ト云是ハ往歲魯西
亜人初テ蝦夷地ニ渡来セシ時ニナ猩々緋ノ服
ヲ着セリ因テ夷人之ヲフーレシヤムト云
赤人ノ蝦夷地ニ来ルヲ記載ナケレハ其初ハ知
レズ 東蝦夷地ニ古来ハアツケシ迄廻船往來シ
シニ四十年前ヨリ子モロラ南キ三四十年前
ヨリクナシリ島ヲ開ク故ニ奥地ニ至リテハ存
邦ノ人往來ナク又夷人モ往來 今蝦夷ノ語ル処ト
稀ナレハ委シキヲハ知レカタシ
松前人ノ傳ル処トヲ採録シテ其事由ヲ見ル
ノ一助トス 一説ニ寛永年間赤人初テアツケシエ
三十人許渡来スト云疑フ

△守重格と云
 四年島列辺房
 川原堂三島
 是嶺海三浪
 降ヲ折多ヲ
 進ニテ紅尾加能
 ハニセシメシ
 ハスラウヤ
 文字ト云
 日本島赤人
 阿波島赤人
 西五ノ赤人

三四十十年前ウルトツブ島^{ニカ}工於テエトロフ島ノ蝦夷人及こもこリヨリ前路島ノ夷人一同カヲ合セ赤人ト争闘セシ丁アリ其時ハ此方蝦夷トモ討マケタリ翌年又争闘アリケレバ赤人ドモ討マケタリ其後エトロフ島こもこリ前路諸島ノ蝦夷各其在所ノ島ニエ帰ケレハ赤人俄ニ囊来テ尽クこもこリ諸島ニ討勝タリソレヨリ以来こもこリ前路ノ蝦夷残ラス赤人ノウタレ^{家来トナリ}ナル然レモウタレトナリこマデニテ其風俗ハ

蝦夷ナリシガ近北ハ全ク赤人同様ノ風俗トナレリ

二十年以上来赤人ヨリこもこリ前路ノ蝦夷人ハ教テ髪ヲ結ハシメ鉄炮玉茶ヲ午へ着類マテモ尽ク赤人ノ風俗トナレリ^{右ニケ條ハエトロフクナレリノ乙名ノ話ヲ}

安永初年獵虎島ニ赤人六十人余渡来三ヶ処工小屋ヲカケ其小屋ハ長十四五間高五六尺ノ土手ヲ築キ上ニ柵ヲ揚ケ中ニ柱四五本立テ棟

木ヲ渡ル草ヲ以テフキ壁ヲヌリ砂ヲカケ小屋
ノ内ニ床ヲ作り出入ノ口ハ三ヶ処ヲ土午四尺ホ
ドニ切開キクルリ仕掛ニ板戸ヲ建テ窓ハ二三
ヶ処ニアケ住居スソレヨリ日々ニ海上ニ差廻
ラシテ朝夕小艇ヲ以テカケ試ニ廻ニ入ル獵虎
ハニメ殺シテ又廻ラハルナリ赤人云ウルツプハ
チユプカムイ 魯西亞国ノ島ナレハ捉ル処ノ
獵虎ハ残ラズチユプカタトノエ出スニシ佗エ鬻
ハカラストエトロフ乙名ハツバアイス云此地

ハ古来カムイトノ、島ナレハ獵虎ハニニハ役人
ナニ出スナリ汝等此地初テ渡来氣随ナリトテ
争闘ニ双方手負死人少カラス其後イカナル故
カ和訖ニテ安永七年赤人初テノツカマツプエ
渡来セシキハクナニリ島ノ酋長ツキノイ案内
セリ赤人云国ノ名ヲヲロシイヤト云城下ノ名ヲ
ムスクワト云濱ノ名ヲカムサスガト云溪ノ名
ヲヲホワコイト云

安永二三年ノ頃 一説ニ安永九年ト云 ウルツプ島ニテ赤

人ト争闘セシ起リハ夷人ノ宝トスル太刀ノ類
古木ノ穴エカクシ置タルニ赤人ソノ木ヲ伐取リ太
刀等ヲ見出シ奪ヒ取レリ夷人ハ償ヲ取ルベキ
トテイヒツノリ双方争論ニ及ヒ兩三年モ取合双
方横死ノ者モアリケリ

安永七戌年六月九日東蝦夷地ノツカマツブエ
子モロ
ノ内 蝦夷船ノ如キ異船二艘ニ異国人乗組外
水先トシテエトロフ島ノ夷人一艘薄暮ニ渡来
ニ湊近処ニ至リ鉄炮ヲ打ツ蝦夷人トモ驚キ騒

ケリ程ナクエトロフノ夷人上陸シテ全ク争
闘ノ了ニハ非ス赤人トモ日本人ト対面シタキ
トテ渡来セル由云ソレヨリ赤人トモ上陸シ濱
辺ニ仮小屋ヲカケ借赤人ノ通詞セルニモシリ
島ノ夷人ヲ以テ云ケルハ蝦夷地ニ日本人諾合
ヨシ兼テ養リ及ニヨリテ対面ノ了願フ処ナリト
頃アツテ夜ニ及フ松前夷人
上采役新井田某目
付工藤某通詞林右
衛 異国人ニ対面夜分ハ如何ユヘ翌朝逢ベキナ
リト答フ赤人再三願ヒケルハ日本人此所ニ諾

合フヨシ養及ニヨリテ遠海渡夫不案内ナル旨
処ニ来リシウハ夜中ナリトモ對面ナケレバ
安心セズ是非對面ノコト願フ申強テ祈ルニ依
テ運上屋ニ呼ヨセ對面セリ即彼小屋ニ歸リ其
夜銃炮用意セル赤人四五人其傍ニ夜番セル故
吏人ヨリ蝦夷人一理不尽ナルトセザルヤウニ
令ヒテ赤人ニハ安堵シテ体息スベコト云送
リケレハ番人ハ引取り翌十日こモシリ通詞
夷人ヲ以テ赤人云ケルハ日本ノ產物ト交易ヲ

望方ニ仕入ノ荷物手本物持来レリ交易ノ了殊
ニ願フ処ナリト吏人云異国人交易ノ了松前
ノ指揮ナクテハナラザル了ナリ今年ハ帰国ス
ベシ明年復ニ至リエト口フ島ニテ有無ノ返答
スベコトテ早ニ歸帆セルヤウニ云ヤリケレバ
十二日ノツカマウプ出帆歸島セリ其時赤人ヨ
リ松前領主ニ音物書簡ヲ送レリ其書簡音物
ハ上乗役松前エ持歸レリ翌八年復赤人去年ノ返
答スヘコトテ松前ヨリ異国人應對ノ吏人ヲ出

こケルニ順風ナクこテ定着セリ赤人ハ五ト
ロフ島ニテ待居タリケルガ黙止カ子ヲクテこリ
島マテ渡来ノ処何タル沙汰モナキニヨリテ又
ノツカマツプ迄渡来待居ケルガ一切ニ沙汰ナカ
リケレバ待カ子ケルニヤ漸ニ進来リアツケ
ノ内チクこコイ迄渡来セリ松前吏人ハ赤人忘
對ノ為
ニ選スル所浅利某松井某工藤某
柴田某古屋某通詞三右エ門林右エ門 四月廿九日松
前出帆南部佐井湊ニ入津順風ナクこテ八月四
日迄滞船同七日初テアウケこ着船ノ処ニ赤人

トモ待カ子テ漸ニ押詰メ来ル由聞之チクこコ
イ迄出張リ赤人エ對面セこニ日本産物ト交易
ヲ願フ由ナリ即吏人ヨリ赤人エ諭こケルハ異
国交易ノ処ハ長崎一処ニ限り其他ハ国法制禁
ナルニヨリテ何等ノ願アルモ叶フヘカラズ以
来渡海無用ナリト云聞カセ且船中用意餼料ト
こテ米十五俵酒煙草烟管等サこ遣入赤人ヨリ
返礼トこテ上乗二人エ砂糖三包目付二人エ二
包相贈リ赤人ハ直ニ帰船セリ
以上三条ハ天明
五年蝦夷地請頁

人飛驒屋ナル者ノ書付ト松前通詞
林右エ門ノ書付トヲ併セノス

安永 八亥年渡来赤人ノ名 コニサバクニ 頭立

者ナリ 髪ハ白苧 縹ノ媒ケタルカ 如ク 眉毛ハ白

コ上着ハ花色 羅紗 股引 白天鵝 絨 笠 黒ビロウド

録ハ 獺 虎皮ナリ 皮ノ靴ヲハク エバンテ 日本エ

赤人ハ 髪 コナ 赤 白 ナリ 通詞ノ

モノヤク ツコイノ 役人ナリ トイフ 上着ハカキ

色ノラシヤ 下着ハ花色ラシヤ 股引 カキ色ラシ

ヤ 笠ハ 黒ビロウド 録ハ 金縹 太刀 キシニコシテ

ヲ 帶ス 銀ノ 鞘皮ノ 柄 鐔ナシ

カムナスガノ 人ナリ 上着 鼠色ラシヤ リエントニ

下着 同シ 股引 フヂ 色 木綿

ムシクワノ 人ナリ 上着 花色 木綿 下着 フヂ 色 木

綿 股引 メリヤ スカブリ モノ 子ヅミイロ

シリイタリ 是ハ 蝦夷人ニシテ 赤人ノ 通詞ヲス 髪 黒

ニ 惣体 エゾ人ニ同シ 上着 紺色ノ 唐木綿

下着 モヘキ 色ノラシヤ 交易ハ 羅紗 狸ニ 緋

耳ガ 子ハ ナシ

棧 田 奥 島 更 紗 皮 類 茶 種 美 牛 馬 鳥 獸 類 砂

糖 漬 類 何ニテモ 好 次第 交易トシテ 持 渡ルベキ

由云 此 一条ハ 赤 夷

聞書ニ 出ス

天明 三卯年 ウルツブ 島ア 知ツトイエ 赤人ノ 大

船一艘 漂着ス 内ニ 赤人ノ 死骸一ツ 舩ヲ 被テ

アリ外ニ 金銀 錢 羅 紗 狸ニ 緋 類 夥シ 時ニ エトロフ

ノ 夷人 ウルツブニ 居ケルカ 舩ヲ 見テ 舩中ノ

物ヲ 悉ク 奪ヒ 取り 舩エハ 火ヲ カケテ 燒 捨タリ

松前及南部也ニ赤人ノ産物種々出シハ此時ノ
了ナリ其跡エ赤人渡来シテ此トヲキ、大ニ怒ケリ
此事詳ニ漂流人ノ條ニ見ユ 此一条ハ最上
常矩ノ記ヲノス
天明五己年赤人三人エトロフ島エ渡来シテ
シヤルシヤムト云所エ七ケ年滞留シ寛政三亥年本国
ヨリ呼ニ来リ帰国スト云其長ハ名ヲシメヲニ
トロヘイイシエゾヨブイシユト云 イルコ
ワカノ人ノ由其次ハイワシエレコリイシユサ
スノスコイト云 ヲホツカノ人ノ由僕一人アリ

名ヲニケタト云 イシユ云 ウルツブエ赤人多
勢渡来セシニ船中ニテイシユハ外赤人ヲ手
荒クセシユヘ恨ヲ生シ同船ナリガタク依テ
エトロフ島ニ逗留ノ由ヲイフ其後クナシリ追渡
来シ其時常矩應對セシニ松前ヨリ長崎ニ至テ
ハ紅毛船エ便乞シテ帰国ヲ乞ト云ヘリ シヤル
シヤムノ家ノ前ニ宗門ノ十字杭ヲ立テ夷人エ
宗門ノ符咒等ヲモ教ヘタリ又其国ノ傳馬ノ證
文ノ由ニテ大節ニ所持セリ方五六寸ノ紙エ横文

字ヲ書シ下ニ細キ條ヲ輪ニシテ錯ビ目ヲ作り
此結目一ツアルトニツアルトニテ傳馬ノ差別
アルト云其條ノ上へ彼國ノ蠟ノ判ヲ押しタリ
此證文ヲ持テバイスハニヤイタリヤ其外ノ
諸蛮國^エ往テモ往來滞ル^フナシト云ヘリ後ニ
夷人ノ言ヲ聞ニ赤人ドモ云ケルハイニユ事數
年エトロフニ滞留遠キ島ニマテ見究タリト
テ國主ヨリ賞セラレシト云
エトロフ夷人ハウシビト云モノ赤人ノ風ヲ学

ヒ髮ヲモ長クシ坂夷人ハ髮ヲキルナリ赤人トハ殊ニ親シ
カリシヨシ寛政戊申ノ年寺重エトロフニ至リ
ニ時シヤルシヤムニテハウシビヲ呼出し赤人ヨリ
何事ヲ学ヒタリヤト問ケルニ赤人ヨリ佛像
ヲ与へ符咒ヲ教へ云ケルハ此佛像符咒ヲ尊
信スレバ漢業モ盛ニ難破船ノ患ナク其外願フト
コロ叶ハズト云フナシト其符咒ハ何ト云ヤト
問ヒシニハウシビ立テ赤人ノ如ク三ツ指ヲ聚
メ額ト胸ト両脇ヲ指シテヲホツボシボクローイト

云フ唱エ言ヲ三度トナヘテ并ニタリチユポカ夷人
イチヤンゲムニ亦同ニ

天明六午年四月赤人ノ船東海ヨリ兼リ廻リ松
前ト南部津輕ノ瀬戸ヲ西海ニ颯ヒ出テ松前ヨ
リ三里ホド西北エラフ村ノ沖ヨリシマコマキ
村ノ沖ニカル時ニ蝦夷人漢船ニテ出ケレバ手招
ニテフラスコエ酒ヲ入テ与ヘタリ

寛政八辰年八月東蝦夷地アブタエイギリスノ
・蛮船一艘蛮人百十人乗ニテ渡来ス武官ノ内ニ

魯西亜人一人アリテ松前人エ通辨セリ

寛政七八年ノ頃赤人ノ大船一艘六十人内女三
人クルムセノ蝦夷一人乗組カムサスカヨリ出
船ノ由ニテ同年九月ウルツブ島エ渡来ソニナウ
ト云処エ上陸ニテ家倉ヲ作り在住ス初辰年
マワコタンニ住セシガ三人死シ己年三月二十
八人帰国午年五月十四人帰国シ残十七人内女
三人ハ^{此人数ハ死失帰国モ}今ニ居残り蝦夷人^{アレハ不定ナリ}
年ニ帰国スベシト欺テ更ニ去ラズ其赤人ノ

頭タルモノニ人アリマイタラシト云モノハ午
年帰国ス今ハケ子トブント云モノ残りテ在留
シ赤人ノ子モ出生シテ既ニ五六歳ニ及ブルア
リ其率ユル処ノ夷人モ亦赤人ノ風俗ニテ髪ヲ
結ヒ鬚ヲ剃ルシモシリ島ノ夷人シレイタト云
モノモ表リテ赤人ノ通詞ヲナス鐵炮玉蓐ハ夥
シク貯ヘラキ十年余常ニ用ユレ氏今尚貯アリ
赤人ノ内艤泊スルモノモアリ犬ノ如ニテ毛
白ク尾長キ獸ヲ持渡リ畜ヒ置タリ其小船ハ二

品アリハ皮ニテハリ木ニテ骨ヲ入シ用ヒザルキ
ハ木ヲ弛シ皮ヲ疊ム大サハ四合舟ヨリハ小也
蝦夷ハトンドチツプト云赤人ハマイタレト云
一ハ木ニテ造ル蝦夷ハロクンドト云赤人ハポロ
シヨシナイト云赤人表リシ初アツケシノ乙名
イコトイモ此島ニ越年シ赤人トハ殊ニ親シク
イコトイヨリモ赤人ノ国王ニ獺虎皮ヲ献シタ
リ前々ハ赤人ドモ蝦夷人エ對シ格別親シメル
トモナク又毎度澳場ヲ争ヒシトモアリケルニ

辰年エトロフ蝦夷トモ赤人在留後初テ渡海セ
ルキニハ赤人格別ニ夷人ヲ親シ厚ク丁寧ヲ
尽シケリエトロフ夷人例年ノ如クウルツブ渡海
セシニ赤人ノ家アリシユハ不審ニ思ヒ沖合ニ
蹴踫セリ然ルニ赤人小艇ニテ出迎ヒ酒烟艸等
飲セ悉ク馳走セリソレヨリ日ニ飲食砂糖ナド
贈リウタレニ至ルマテモ酒食ヲ以テ饗待セリ
其上獵漁ノフモ前ニハ常ニ争論アリケルガ此
度ハ然ラズ蝦夷人ドモ獵虎ヲ持往テ賣ニト

云ハバ日本エ出スハキ産物ナレバ買ラベカラ
ズ怪物ハ日本エ出スベキナド云日ニ引綱ヲ以
テ漁事シテ其魚ハ半ハ蝦夷人エ分テ与フ赤人
云向後年ニ日本ノ産物持来ラバ彼国ヨリモ品
品持越シ交易スベシ蝦夷地ニハ日本人モ来リ
居ルユハ日本ノ産物多カルベシ何品ニテモ持来
ルベシ其内皮裘尤望ム所ナリ又米ハ格別ニ
珍重スト云夷人ヲ見ルゴトニ日本ノ米ハ所持セ
ズヤト再三問フコトナリ米スラ渡スベクハ及

物类何ニテモ交易スヘシト云其赤人ノ名
 ワシレイコシニヲプスエズドニケレトプセル者
 イリコウツカノ産五十歳余 イエフテベイワプセン 四十歳余 イロ
 ニゼリヤンノブ 三十歳余 マクセムカアセンステパ
 ンドマセフ 四十歳余 ミハイラニクジ子エグフニテ
 レイセレエヘレ エニコフニハイラニレイチユ
 アタニハホトフ 五十歳余 ステパニカザンツラウフ
 三ナ歳余 ヲニシヤアレキセエワ 二十ニ歳 イワンドロ
 ヒム 三十歳余 女二人ゼナニエランノヲリイナ 三十七歳
 八歳

ヲニシヤアレキセエワ 二十ニ歳 女子三人ナタリ
 ヤ六歳 一ドシヤシ四歳 ヲリイナニ歳 右ノ赤人
 今ニウルツプ島ニ在留ニテタラズ
 ハンベンゴロウ

明知八卯年阿波ノ海濱エ異国船漂着ニ其後琉
 球国大島エ其船着岸ニテ同所ヨリ長崎在留紅
 毛加比丹エ書簡ヲ送ル盖阿波ノ太守薪水ヲ
 賜フノ恩義ヲ謝シ且松前蝦夷地ヨリカムサスガ
 追ノ要害油断スベカラサルヲ告ケ越セシ

ナリ其加比丹ニ送りし書簡ハ其時長崎ニ於テ通
詞ニテ訳サシム其文下ニ載タリハンベンコロウノ
魯西亜ニテ名ヲアウスト云元来ポリシヤ
国ノ士ナリシガ故アリテスヌクワエ因ハレタリ
穎悟ニシテ卓量アリシ豪傑ナリ非理ナルコ
アリテヲホツカトカムサスガトノ間ノセレホ
レツユイセカーフカト云所ニ左遷セラレテ居
タリシキイツコイワフバセローフト云二人ノ
官士ロシヤエノ貢物ヲ積シ大船ニ乗テ此所ニ

来ルアウス曰我願クハ蝦夷及日本ノ東海ヲ廻
リ南洋ニ出テ本国ニ帰ラント志スニ今時ヲ得
タリトテ狼藉ニ其船ヲ奪テ開帆セントスイツ
コイロフ大ニ怒ルバセローフ曰日本ノ東海ヲ
廻ルヲ幸望ム所ナリトテ共ニ船ヲ出シ南方ニ
針路ヲ求メ開帆セシガシモシリ島ハヨキ湊ア
レハ此ニ船ヲツナキ薪水ヲトリタリイツコイロフ
ハ船ヲ出スヲ昔ゼス是ニ於テ大ニ打擲シテ砂
濱ヲ弃置テ出帆スイツコイロフ即蝦夷人ト

共ニシモヨリヨリカムサスカニ帰ル帝其心ノ
堅キヲ賞スアウスハ日本ノ東海ヲ廻リテ針
路深淺ヲ測リ四国ノ阿波ニ船繫ニテ薪水ヲ取
ル時ニ阿波ノ国主厚ク撫卹アリ夫ヨリ阿波ヲ
出帆ニテ琉球国大島ニ至リ同所ヨリ長崎ノ江
毛加比丹ニ書簡ヲ送テ阿波ノ国主ノ恩義ヲ
謝シ且日本ノ油断スマジキ由ヲ告テ越セリ夫
ヨリ天竺ノ南洋ヲ廻リフランス国ノバテリー
ト云処ニ着船ニテアウスハ又其地ニ居ルト云

バセローフハ船師ヲ率テ本国ニ帰リ日本及蝦夷
ノ地理南洋ノ方程ヲ言上ス帝其大量ニシテ
智謀アルヲ賞シテ褒美ヲ賜フト云其横文字七
通ヨリ即江毛通詞ヲシテ加比丹エ古加比丹ダ
ニイルアル
メナウルト新加比丹ア
レントウエル
レムヘイト 間ハシメテ誤セシム
一説ニアウス後ニトイチ国ヨリ加比丹エ書簡
ヲ送ル加比丹長崎エ齎シ来テ出ストモ云一説
ニ安永八亥年長崎渡来ノ江毛人トイチ国ヨリ
其書簡ヲ持来テ国主ニ送ル即江城ニ上達シ長
崎ノ通詞ニテ誤セシムト此ニ説恐クハ非ナラ
其七通ノ内ニ通ヲ左ニ載ス

小四十一度二十八分ニ測量を以て也 赤道は小四十一度二十

八分測星を以てし中傾ハ數を量 かく志の何てかく進不

カールリースと中名西に 赤道ハ以て赤道ハ以て

北を築き、或る不き込 赤道ハ以て赤道ハ以て

レコスに對し 赤道ハ以て赤道ハ以て

赤道ハ以て赤道ハ以て 赤道ハ以て赤道ハ以て

赤道ハ以て赤道ハ以て 赤道ハ以て赤道ハ以て

赤道ハ以て赤道ハ以て 赤道ハ以て赤道ハ以て

赤道ハ以て赤道ハ以て 赤道ハ以て赤道ハ以て

赤道ハ以て赤道ハ以て 赤道ハ以て赤道ハ以て

僅る若報い 守重云明和八年ニ當ル

千七百七十一年 ユークイセ日

ウシマコあわし

一 修為しゆく徳を以てハカむ志ありてかく海辺に修為

もこのまじり六く中 進出かむ志ありてかく修為

一 進出由あるべし

一 び高れ来るかむつてかく志一板は出物あるためなる

カムサスガ地方 一カムシカマカカコヤツケ

東砂葛記及魯西亜志云カムサスガハ魚日西亜ノ
属国ニシテ彼国イルクツカト云大地ニ属セル
七国ノ一ナリ 彼国東方ニベサイノ東辺ニイル
クツカト云地アリ即イルコウツカ
リナ其地ニ大河アリカムシカワトカト云其源北
極五十四度ノ辺ヨリ流レテ五十六度半ニテ大
東洋ニ注ク故ニ其地ニ名ケタルナリ日本ニテ
古昔奥蝦夷ト称セシ地ナリ此地イルクツカノ
東辺ノ地ヨリ長ク指出テ南西北長サ二百四十
里ソノ南ノ崎ヲクリルスカヤロパチカト名ク

即クルム
セナリ 五十一度半ニ当ル此地ハ山甚多シ然
モ石山ニテ不毛ノ地ナリ中ニ三ツノ火山アリ
昔ヨリ常ニ烟ヲ吐キ又時ニ焰ヲ出シ灰ヲ降ス
一ツハアワシニスカヤ一ツハチユルハシニスカヤ一ツハ
カムシカワトカト云此山第一ノ高山ナリ毎年
二三度ツ、灰ヲ噴出ス元文二年 千七百
三十年 大ニ焼出
テ石及ヒ種々ノ硝子ノ如キモノヲ吹出セシ
ヲアリ又温泉極テ多シソノ水常ニ夏ノ熱サ
如キモアリ又常ニ沸騰シテ鳴リ響クアリ其傍

ニテ人声ヲアゲテ呼レバコキ烟ヲ起シテ三四
丈モ隔リタル処ハ見ヘザルヤウニ成モアリ其
水面ニ黒キ泡沫アリテ手ナドニツケハ洗テ
モ落ガタシ是地神ナリ本邦越後ノ地震海嘯ハ
度々アリ火山ノアタリハ別テツヨシ氣候ハ一
年ノ内八月ハ冬ノ如シ南ノ方ハ常ニ雪ノ深サ
一丈餘北ノ方ハ却テ雪ナシ復ノ氣候ハ甚短シ
故ニ五穀ヲ生ゼズ罌子ノテルホルトカムシカ
ツトノ畑ヲモ作ルナリ雷ハ甚稀ナリ

国人ヲカムサスガテルスト云是數百年前蒙古
国ヨリ其人衆ヲ置タリ其人アムルト云川支那
黒竜江ト呼モノナリヨリ渡テ處ニ住居ヲ構ヘテ散
在スルナリ其人物甚長大ナラズ色ハ赤黒ク髮
ノ色黒シテ惣テ面潤ク鼻尖リ目深眉ウスシ垂
タル腹廣キ肩手脚ハ瘦タリ皆沿海ノ処ニ住ム
其飲食ハキワメテ穢ニ養タル狗ノ物クヒタル
器ヲソノマハ拭清ムルヲモセズニ用ルナリ
若処ハ土ヲ四五尺堀テソノ上ニ柱四本タテ

屋根ヲ造リ土或ハ草ニテヲ、フ上ニ四角ナル
穴ヲ穿テ子烟出シ明カリトリ出入口ニ兼用ユル
ナリ澳獵ノミヲ業トス衣服ハ諸ノ獸皮ヲ以テ
綴リ接テ用ユ家具ハ石又鯨ノ骨獸ノ角等ヲ
以テ木ヲホリ凹メ四鉢ノコトクニシテ用ルナリ
魯西亜ヨリ来ル外銅鉄ノ器ヲ用ルヲ見ス
犬ヲ多ク養テ牛馬ノ如ク使フ雪中ニ氷ヲ船
ニテ行ニ之ヲ用テ牽シムルナリ妻ヲバ何レモ
二三人ツ、持ナリ子ヲ産テモシ孖生ナレバ其

一ヲ殺ス以前ハ土人尤野鄙愚陋ナリシガ魯
西亜ニ服從シテ後寛保九年千七百四十一年ヨリ女帝
ノ命ニテ天教ノ會士等ヲ遣シ按ニケエブカ夷
人ノ呼稱ヨウロ
ウシイシヤ
ルモノナルベシ 土人ヲ教導セシムルニヨツテ教
化モ行ハレ道理モ聞ケタレハ遠カラズ善良
ノ民トナルベシ又一種ノ夷人アリクリレスト云
カムシカトカノ南ノ出崎及南ノ諸島ニ住ナリ
クリシルスノ丁前ニ見ユ守重云以上説トコロ
我奥坂夷ノ風土ト符合ス故ニ洋ニノス然レモ
子ユフカ諸島ニテ犬ニ物ヲ牽スルヲイマタキカズ
カラフトツ、キノ地方ハミナ同ジキコトカ

カムシカツトカニ魯西亞ノ小城五処アリ
ホルスケレツコイト云ホルスカヤト云大河ノ側
ニアリペンシニスカヤノ海灣ヲ大ムル丁三十三ウ
正ルステニ一ウエルステニ三百五十丈ニ当ル
ミウエルスタ六分城ノ大サ四方四十九丈ヲコ
日本一里ニアタル
ツコイ通商ノ船先ツ此地ニ来リ集ル故ニ甚繁
盛ナル地ナリニラウツプルホルトカムシカツ
トカト云五ヶ所ノ内此城尤古シカムシカツト
カ河源ヲ去ル丁六十九ウエルステニホルスケ

レツコイノ北二百四十二ウエルステニ有リ
倉廩武庫ヲ設クミラ子一テルホルトカムシカツ
トカト云ラツブルホルトノ即位三百九十七ウ
エルステニカムシカツト河口ヲ去ル丁三十ウ正
ルステニ城ノ廣サ方二十八丈周リニ木柵ヲ構
フ四ラヤツツカト云元文五年千七百四十年ニ建ツアツ
ツカ河ノ港口ニ在リ寺重云今長崎工師表ル魯
西亞ノ漂流民仙臺石巻若宮
丸船頭清兵衛其外口ニヤヨリ差越セル書状ニ
アツガト云所正着トアルモ疑クハ此地ナルカ
五ラデキルト云近コ口建タル城ナリデキル河

辺ニ在リ

カムシカツトカノ属島極テ多シ著キモノヲ左
ニ挙ク

クリルノ諸島ハカムシカツトノ南ノ崎ヨリ南

西ノ方ニ連綿シテ散在ス著キモノ二十五島

アリ三十三日三其項ミタルモノ数ヲ知ラズカムシ

カツトカニ近キハ皆魯西亞ニ従ヘテ遠ハ別

ニ属スル処アルヘシ或云此諸島カムシカツト

ノ言ヲ以テ第一島カノ方ヨリ初トシテロシヤ

次ヲ逐テ各ヲ余シタリ 此諸島ノ人クリ

ルノ人ト互ニ交易ヲナス日本ノ人モ之ニ加ル

ナリウツルベ 按ニエトロフ ウルベ 此ニ島ロシ

ヤニモ日本ニモ属セズ但交易ヲ通スルノミナリ

フラント子デルニテ カラムシノ如 布ヲ製シ

日本ノ指木綿鉄器等ト交易スルナリ此島ノ東

南ニクナシリト云 蝦夷ニ属シタル島アリ又マ

ツマエト云大島アリ日本ト一線ノ海路アリテ

之ヲ隔ツ此島既ニ日本ニ従ヘリクナシリノ人

ニ之ヲ審ニスルニ此海路ノ隔アルヲ云ヘリ此

島南北凡六百里アリ日本人エゾト名ク
子ルシンスキハ黒竜江ノ岸ニアリ北極五十二
度ノ地ナリ千六百八十九年元禄二年城郭ヲ築キ
支那ト疆ヲ固メ此地ヨリ北京ト交礼ノ
使節ヲ通ス

荷蘭全世界地圖書記ニ云此書寛政年間舶来スル所ノ図ナルニ紅毛通詞本大仁太夫ナルモノニ一ノ符号ノ横文字ノ文ニ云
此地図ハリユスランド国即ロコヤナリ 閣老ノ筆記
役ヨハン子スケイリロウト云シモノ一千七百三

十四年ニ當テ出シ与フル地圖ニ後テ正補シタル
地圖ナリ 船主スバンベルゲト云シ者カムシ
カツトノ地ヨリ船ヲ乗タル説ヲ記録ス三ノ符
号ノ横文字ノ文ニ云 土曜日ニ當テカムシ
カツトノ地ノ説ヲ記シテ此地ニ飛脚一人卷着
セシナリ 船主スバンベルゲト云シ者カムシカ
ツトノ地ヨリ大船四艘ヲ以テ海ニ浮ミ十六日
海路ヲ乘リ大小ノ島三十四島ヲ見 関キ彼陸ニ
至ラニト思ヒ小船ヲ六艘造テ之ニノリ 彼地ヲ

見聞ニカ为ニ人ヲ陸ニ至ラシム土人叮嚀ニ忘
對ス言諾ヲナス丁能ハサレ氏錢ヲ見セシム船
主ノ上ニ裁配ノ人ニハヤリニキト云シ人アリ
彼レニ此ヲ知ラシメズシテ船主自ラ彼地ニ
至ラシヲヲ後ニ船主カ大君ノ重ニ一事ナル
故一人ニ知ラシメズ彼が利欲ニシテ己カ大君
ノ上ニ披露セシヲ思ヘリ是ニ因テ裁配ノ人
謀ラ成シ彼ノ地ニ至テ春ヲ歷ケリ意フニ日
本ノ島ナラニカ彼ノ地ヨリ持来リコ一文ノ小

銅錢大サ和蘭錢ノ如ニシテ少ク厚ク平ニメ周
郭高シ中ニ方孔アリ其方孔各方ノ傍ト線トノ
間ニ一面ニハ文字アリ日本ノ文字或ハ支那ノ
文字ナラニカ一面ハ無字ナリコニトペーテル
スビルグノ地一千七百四十年正月十三日

蛮書云 コリラニツトルコ 記シテ 王国西別里亞 峽

地極テ廣大ニシテ沙漠ヨリ北ノ方氷海ニ傍テ
其東ハ東方ノ大洋ニ至リ蝦夷ノ東北カムシカ
ワトカニ至ルマデ皆此部内ニ隸セリ

蝦夷双紙云魯西亞人イシユユ云カムサスガノ
北ニチヨウキチト云国アリ北極六十度ニ及フ
ト云蝦夷ニモアラズ魯西亞ニモアラス国主モ大
カリシカ近來魯西亞ヨリ服従セシメ国ノ名ヲ
改テアナカテルスコイト云此国ニ大河アリ
アナテリト云因テ名トスラレニト云獸アリ此国
ヨリ北ハ小島ツ、キニテ四時氷海ナレハ通航
スルヲ能ハズ北極六十度ニ及ブト云此国ノ
人山獵ヲ業トス守重按ニ魯西亞志ニ云アナデ
ル河ハカムシカワトカノ北ニ

アリシトトイコス峯ノ東ヨリ大東洋ニ往ク
又云アナジルスキハ東北ノ隅ニシテアナシル
河岸ニアリ北極六十六度ノ地ナリ此地猶イマ
タ全ク本国ニ服従セズ其地ノ尽头ニ大ナル地
アリ之ヲカムシ
カワトカト云
魚日西亜聞畧イシユユサスノスコイノ
話ヲ記ス中村某ノ記云ヲロシヤノ
国南ハ韃靼清朝天竺ノ境トス清朝ノ方ハ
アモルト云大河ヲ国境トシテ魯西亞ノ国内
セバフタト云所ヨリ西国ノ交易アリ此処ヨリ北
京エ近シ本国ヲモスクワト云ベテルボルイリ
コイツケイヨコツカヲホワカカムサスカ

千ヨウキチ等ノ地アリヲホツカカムサスカハ
 東北ノ海濱寒国ニテ穀類ナシイリコツケ辺ヨリ
 飯糧運送ス産物皮美多シ此処ヨリ東北ノ諸島
 獵船ヲ出スウルツブ島エモ十六ヶ年ホト以来
 獵虎獵ノタメ年々来ルヲホツカハ守護一人下
 彼四十人小役二百二十人イリコツケヨリノ勤
 番所ナリ當時守護人ノ名イワニヒヨウドロイ
 シヨベンゲンカムサスカノ奥蝦夷ノ島ト近
 守護人下役二十人小役百人余當時守護人ノ

名 フランスイニヨリニキニ其里程ハクナコリ
 ルツブ 海路五百五十ウエルス夕 此里姜百五十
 島マデ 里ウルツブ島
 ヨリカム 海路八百ウエルス夕 此里姜二百二十二里
 サスカ近 余曲尺七尺二寸ヲ
 五百合ニテ一ウエルス夕ト云 セウエルス夕
 ラ一ミ一ヲト云是ハ海路ヲ積ル法ナリ陸路
 ハウエルス夕ヲ 以テ積ナリ
 唐国ノ境ニゼツフ夕ト云処アリアモルト云大
 河ヲ境トシテ北京ト交易ヲナス兩國ヨリ番所
 ラ立テ境ヲ守ル北京ノ交易ノ直段アラマシ下ノ
 如シ獵虎皮 一枚代餅木綿 獺皮 一枚代同 狐皮 一枚
 百五十及ホト 十及ホト

三及 程 貂皮 一枚代同 白海豹皮 一枚代同 日本ノ丁

聞及ビタルヤト問フニ長崎ト云所アリテ紅毛

イスバニヤノ人年々来テ交易ス其人又ラロコ

ヤ丑夷ルモノアリ 故ニ詳ニ聞及タリト云又

一書ニ云 最上常 赤人イシユヨノ記スル処渡

海ノ里程花ノ如シ

ノツカマツプトクナシリノ渡 六十エルスダアリ 即十六里二十四

町 ナシリトエトロフノ渡 二十一エルスダ即 五里三十町

エトロフト ウルツブノ渡 六十エルスダ 即十八里二町 ウル

ツブ 徑 百五十エルスダ 即 四十一里二十四町 ウルツブトシリポイノ

渡 三十エルスダ 即 八里十三町 シリポイノ間 即 六里三十四町

シリポイトシモシリノ渡 百エルスダ 即 七里二十八町 シモ

シリトカムサスカノ渡 九百エルスダ 即 二百五十里 カムサス

ガトヲホツカノ渡 九百エルスダ 即 二百五十里 シモシリトヲホ

ツカノ渡 九百エルスダ 即 二百五十里 シモシリトヲホ

云フ処大同小異ナリ今別ニ説ラ 魯西亞紀聞云子

作ラズ其大畧ヲ見ル ノコ 魯西亞紀聞云子

聘使アタムヲクスマニエゴトコロコフ ウワ

スバビコルフ三人ノ話ヲ記ス加藤某ノ記ナリ

カミシヤツカ家妻百四五軒代官有テ守ル大

川アリ船ハ川ノ内エ入レヲクヨキ澗泊アリカ
ニヤツカヨリアミシ
一ツカ近海上九千百里 同処ヨリ 千キリ近
三百七十里 山越路ナリ家姜凡二百軒代官
アリ千キリヨリヲホツカ近海上里姜凡八百里
代官アリ大船川エ入ル湊ハ海底砂ニテ浅シ故ニ
汝満ルヲ窺ヒ船ヲ入ル、ナリ陸ヨリ二百間斗
沖ニ右ノ砂瀬戸アリ外ニ澗泊モアリ戸姜凡
二百軒余同所ヨリヤコトツカ近山越路凡千
十三里代官アリ戸姜凡五百軒此地昼夜朦朧トシ

テ明ナリ然レモ暮ニ至テハ少シ暗シヤコトツカ
ヨリイルコトツカ近里数凡二千四百八十六
里川ヲ沿フル中三百五十里ハ旅館アリ戸数凡
二千百六十軒代官アリカミシヤツカ 千キリ
ヲホトツカヤコトツカ等ノ代官ハ皆當所代官ノ
配下ナリ同所ヨリ魯西亜ノ都へテルホル近凡
五千八百二十三里 古都モスクワヨリ 今ノ都エ
五十一里 日本ノ一里ハヲロシヤノ三里ト
日本ノ間ニテ二百六十間ナリ イル
コトツカヨリ満州近 マンチユ
ルト云 凡四百五十里大



川アリ兩國ノ境トス川ノ名ヲエカアモト口ト
 云黒竜江ノナリ支那ヲキタユスコイト云支
 那ノ都ヲペーキント云王ヲハント云サバリニ
 ノ島周廻凡七百里支那ノ夷ゲレヤスト云者居
 ルヲホーワカニ阿蘭陀人六人住居スルト云
 イルコトツカヤコウツカ共ニ雪アラズ寒氣ハ
 至テ甚ト云ヲロシヤ人冬ハ雪換ニノリテ往来ス
 精ハ犬ニヒカセルナリ犬ハ皆尾ト陰囊ヲキル
 又与モ陰囊ヲキルナリ如缺スレハ精氣衰へズ

ニテ強シト云陰囊ヲキリ玉ヲ取捨テ其アトエ
 塩ヲ入テ縫トナリアメリカ人鼻エ穴ヲ通シ
 牛ノ鼻クリノ如クニテ骨ニテ牙ノ如ク拵エ其
 穴ニ通シテ下エ垂ル下唇ハモ穴ヲ通シ骨ニテ
 牙ヲ拵へ下ケ置其人此度西人来レリ 守重云垂
書ニウエ
 ホフニ北アメリカノ人頬アミシイツカノ女下
 ニ牙ヲ通セシ因アリ
 唇ニ穴ヲ通シ骨ニテ牙ヲ拵へ其穴エ通シ下へ
 垂ル惣身文ニスヲロシヤ国ノヲホーワカヨリ
 松前ノ東夷子ム口迄海上里婁凡千九百里



Faint vertical Japanese text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are difficult to decipher due to fading and the texture of the paper.

